

各 位

令和2年6月1日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



湿地に咲き誇るクリンソウ（円内はニッコウキスゲ）

クリンソウ(サクラソウ科)

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわが多いです。花が開く頃に花茎はぐんと伸び、紅紫色の花を5～7段輪生状に多数つけます。日本のサクラソウの仲間では最も背丈が高いようです。クリンソウ（九輪草）は寺院の塔の請花と水煙の間にある九輪に例えて名づけられたようです。

6月に入り、野草園の植物たちは鮮やかな花を咲かせ、ますます緑の色を濃くしています。「クリンソウの谷」の湿地では紅紫色のクリンソウの花が咲き誇っています。その東側の草地には黄色のニッコウキスゲが咲き始め、谷一面がピンク色と黄色の花でいっぱいです。また「ひょうたん池」の西側にはピンク色のヒメサユリも咲き始めました。

新型コロナウイルス感染症対策で、不要不急の外出を控えていた皆さん、野草園は広いのでソーシャルディスタンスを十分に保つことができます。友達や家族で山野草を観察しながら気分転換をはかっ
てはいかがでしょうか。

※開園時間短縮のお知らせ

6月1日～8月31日は午前9時から午後6時まで開園予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策及びクマ侵入に備えた安全確保のため、午前9時から午後4時30分までの開園時間とします。尚、入園は午後4時までです。

※5月に引き続き

- ◆6月のすべてのイベントは中止いたします。
- ◆「自然学習センター」と「カフェやまぼうし」の再開は、今のところ未定です。来園前にホームページ又はお電話でご確認ください。

(<https://www.yasouen.jp>) (023-634-4120)

●●●6月前半に見られる主な花たち●●●



ホオノキ (モクレン科)

落葉高木で、高さは30m以上になるものもあります。葉は長さ20～40cmにもなり、倒卵状楕円形で全縁です、そして裏面は白い粉を帯びています。互生しますが、枝先に束生し、輪生状に見えます。花も大型で白い花が真上に向かって開花し芳香があります。花弁がらせん状に配列し、萼片と花弁の区別も明瞭ではありません。



カキツバタ (アヤメ科)

湿地に生育する多年草です。ヒオウギアヤメやノハナショウブに先がけて咲きます。葉の幅が広く中肋(中央に通る太い葉脈)はありません。花茎の先に青紫色の花をつけ、花弁の中央基部には白色の条紋があります。花は衣服を染めるのに利用されたため、名の由来は「書付花(搔付花)」がなまったものだそうです。



ヒオウギアヤメ (アヤメ科)

湿った草地に生える多年草です。葉の幅はアヤメに比べて広く剣状をしています。3枚の外花被片は大きくてアヤメに似ていますが、内花被片3枚は小さく目立ちません。ともに、外花被片が黄色～白色で紫色の編目が入ることで他の花と区別ができます。名は、葉が桧扇(ヒオウギ)に花がアヤメに似ているからです。



キタマムシグサ (サトイモ科)

高原～山地の林の下などに生える高さ30～80cmの多年草です。従来、コウライテンナンショウと呼ばれていた植物ですが、仏炎苞の舷部がよりヘルメット状に膨らみ、白条が広がって半透明になるという形質で前種とは区別できます。太い茎が直立し、茎の皮が蛇の体のうろこに似た感じなので名がつけられたようです。



チョウジソウ (キョウチクトウ科)

湿った草地に生える多年草で、茎は直立して上の方で枝分かれをします。葉は互生し披針形で先はとがります。茎の先端に多数の花をつけます。花は青紫色で下部は筒となります。上部は5裂して平らに開き、裂片は狭長楕円形です。名は「丁字草」で横から見ると花の形が丁字に似た草だからだそうです。



ベニドウダン(ツツジ科)

山地の岩尾根などに生育する落葉低木で、葉はベニサラサドウダンと同じように枝の先の方に集まってつきます。花は紅色で筋はなく、花卉の先が少し閉じ気味です。そして数個の花が小枝の先からブドウの房のようにつきます。



ベニサラサドウダン(ツツジ科)

中部地方北部～東北地方南部まで分布する落葉低木です。花は鐘形で、下向きに咲き、紅色の花には濃紅色の縦の筋が入ります。サラサドウダンに比べ、花はやや小さく、色は濃いです。近くに咲く同じ仲間のベニドウダンは、さらに花は小粒で、色は濃くなります。



ニッコウキスゲ(ススキノキ科)

本州の中部地方以北の山地に生える多年生草本で、草原に群生することがよくあります。花茎の先に黄色い花を3～4個つけます。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花で、漏斗状の鐘形です。若葉や花のつぼみはおいしいらしく、動物などにも食べられます。



ヒメサユリ(ユリ科)

新潟県と東北地方南西部の高山に生える多年生草本です。ササユリに似ていますが、草丈が少し低くて、雄しべが外に出ないという違いがあります。漏斗状鐘形でピンク色の花を茎の先に1～2個つけます。名の由来はササユリに似ていて小形であるからのようです。別名オトメユリは、可憐さを表しています。



オゼコウホネ(スイレン科)

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を1個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネとは雌しべの柱頭盤が赤いことで区別できます。



ヤマボウシ(ミズキ科)

各地の山野に普通に自生する落葉高木で、ハナミズキに花や葉は似ています。花卉のように見えるのは苞で、その中心にある淡黄緑色の小花が20～30個密集した丸いものが花序です。小花は、花卉と雄しべが4個で雌しべは1個です。秋に果実は赤く熟します。名は丸いつぼみの集まりを坊主頭に、白い苞をその頭巾に見立てました。



フタリシズカ(センリョウ科)

山野の林内に生える多年草です。ヒトリシズカの葉が4枚でほとんど同じ所から出るのは違って、葉はやや接近して対生します。白い米粒のようなものが1個の花で、たくさん付けた花穂を2本付けることが多いので、ヒトリシズカに対してフタリシズカです。



バイケイソウ(シュロソウ科)

山地の湿った草地に生え、直立した茎の高さは2m程にもなります。葉は大きく長楕円形です。1つの花は径2cm程の緑白色の6弁花ですが、それが集まって非常に大きな花穂になります。名前の由来は、花が梅の花に似ていて、葉がケイランに似ているからだそうです。



マルバダケブキ(キク科)

深山のやや湿り気のある草地や林縁に生える多年草です。葉はフキに似て長い柄があり腎円形です。茎の先に大きな黄色の花をつけます。花は大形の舌状花が10個程あって中心には筒状花が多数集まります。同じ仲間のトウゲブキに似ていますが、花も葉も大きいです。



オオナルコユリ(キジカクシ科)

北海道～九州に分布する多年草で比較的明るい落葉林の下などに生育します。同属のナルコユリやミヤマナルコユリに比べて大形で、茎の高さが1m程、葉の長さは30cmにも達し弓状に曲がります。細い花柄の先に、6枚の花被片が合着した筒状の花を2～4個つけ、数組が垂れ下がります。この垂れ下がる花の様子を鳴子に見立てたことが和名の由来のようです。



ガマスミ(レンブクソウ科)

日当たりの良い山野や林縁などに生えます。幹は株立ち状になり、太い幹は4cm程になります。葉は対生し、形は広卵形から円形です。縁には浅い鋸歯があり、葉の両面に毛があります。本年枝の先から、散房花序を出し、白い小さな花を多数付けます。



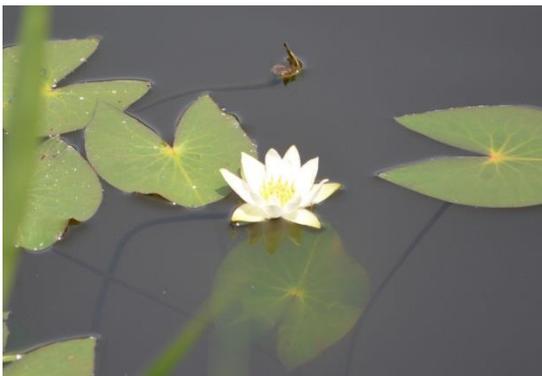
エゴノキ(エゴノキ科)

雑木林などに生えている落葉小高木です。今年伸びた小枝の先端に白い花を下向きに数個ずつ付けます。花は5裂した白い花弁で、雄しべの黄色い葯が目立ちます。枝は花でいっぱいです。花後にできる果実は毒性があります。名前の由来は果実が“えぐい”(あくが強いがらっぽい)味がする木であるからです。



スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名は「朝に花が開いて夜に閉じる」つまり、睡る蓮ということでした。



ヒツジグサ(スイレン科)

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8~15枚あり、長さは萼片とほぼ同じで、黄色い雄しべの葯が目立ちます。名は未草(ヒツジグサ)で、未の刻(午後2時)頃に開くことによります。そして、夕方には閉じてしまいます。



ハコネウツギ(スイカスラ科)

太平洋側の山地に生育する高さ2m程の落葉低木です。対生する葉はやや厚く、枝先に多数の筒状花を付けます。花は初め白色で、徐々に紅色に変化します、だから1つの木に白色と紅色の花が咲き並び華やかです。また雌しべの柱頭が少し出ているが目立ちます。名前はハコネですが箱根にはわずかにしか自生していないそうです。